

2003年3月期 中間期 業績概要

2002年11月1日
アンリツ株式会社
常務 中井 健夫

2003年3月期 中間期業績概要

(1) 全社 (連結)

単位: 億円 ()は前年同期比増減額

	連 結		単 独	
売上高	383	(- 394)	210	(- 352)
営業利益	54	(- 178)	67	(- 157)
経常利益	72	(- 170)	72	(- 154)
純利益	166	(- 232)	138	(- 191)
FCF	21	(+ 23)	63	(- 20)

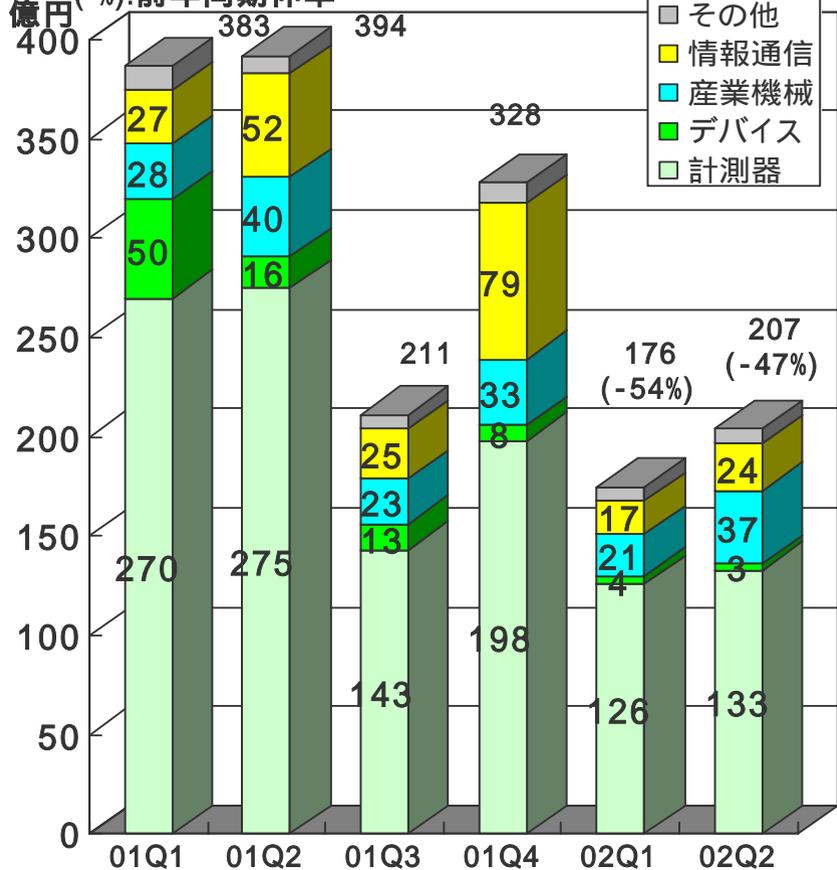
(2) 事業セグメント別 (連結)

単位: 億円 ()は前年同期比増減額

	売上高		営業利益	
情報通信機器	42	(- 38)	17	(+ 12)
計測器	259	(- 286)	34	(- 160)
デバイス	7	(- 58)	12	(- 27)
産業機械	58	(- 9)	2	(- 1)
サービス他	17	(- 3)	5	(- 1)

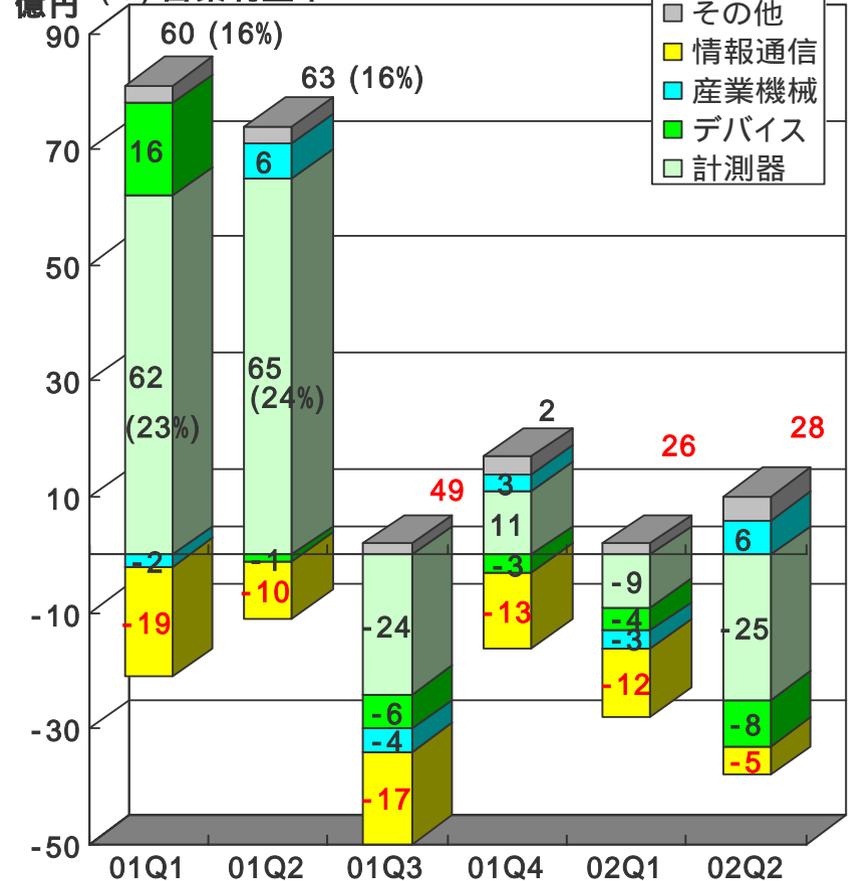
事業セグメント別業績(四半期比較)

(%) : 前年同期伸率



売上高

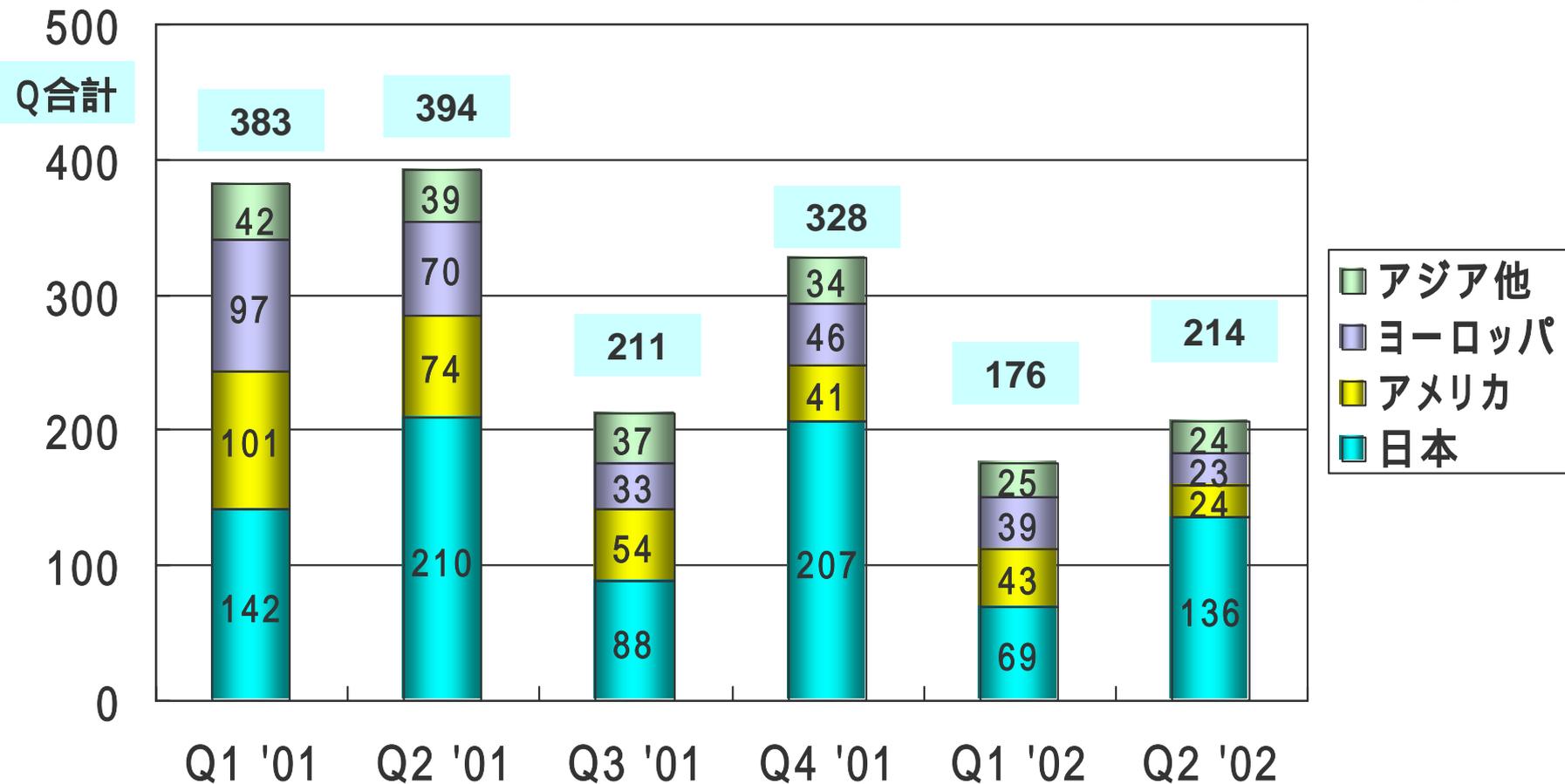
(%) : 営業利益率



営業利益

地域別売上高推移 (四半期ベース)

単位: 億円



営業外・特別損益概要 (連結)

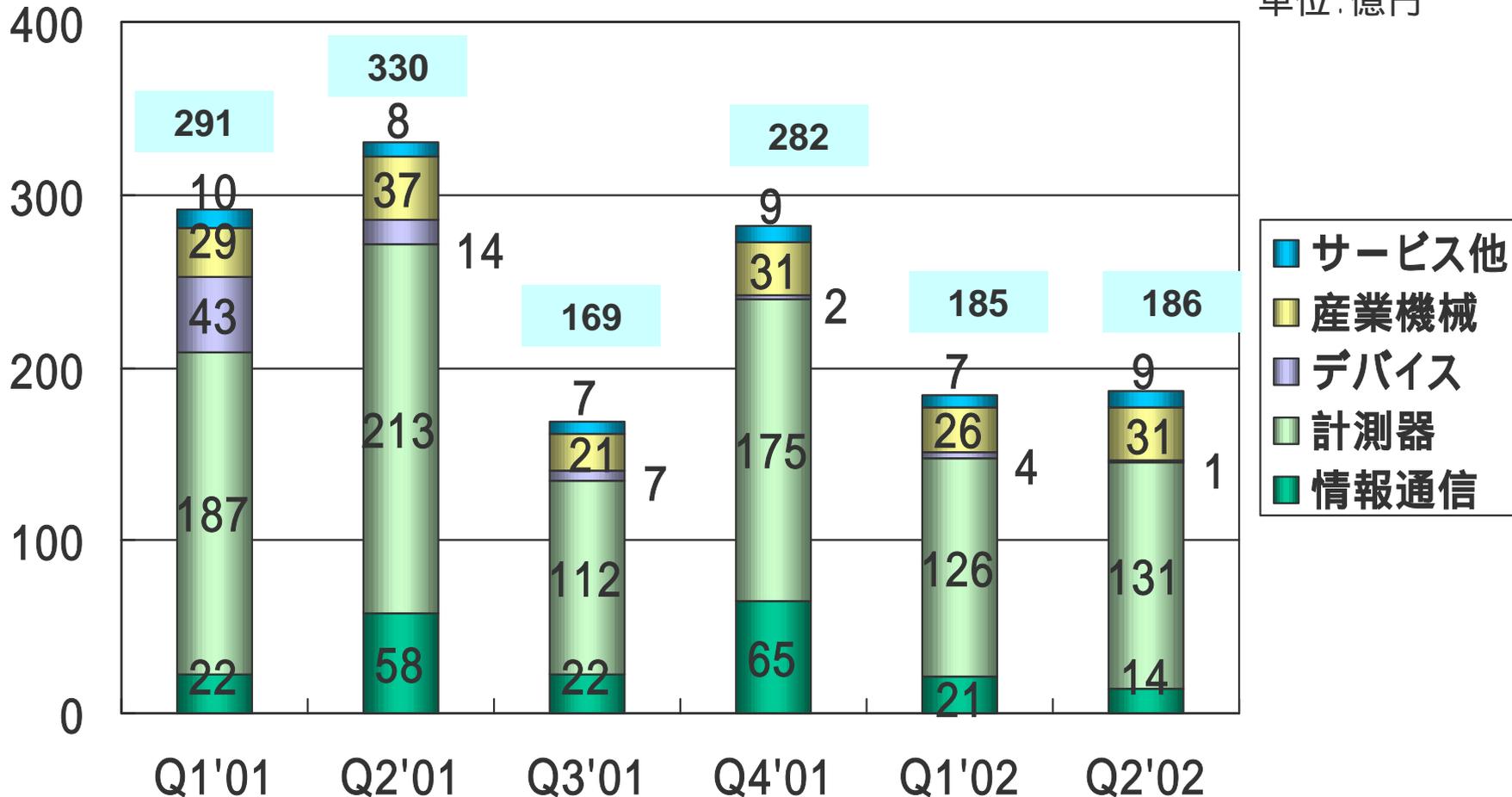
(百万円)

	上半期		通期	
	2001/9 実績	2002/9 実績	2002/3 実績	2003/3 予想
営業利益	12,322	5,441	7,585	3,500
金融収支	430	617	908	1,100
資産廃棄評価損等 為替差損益	1,441	1,059	2,673	2,500
その他	657	165	1,345	
その他	63	33	405	400
営業外損益計	2,591	1,808	2,641	4,000
経常利益	9,731	7,249	4,945	7,500
退職給付関係	1,387	6,229	1,387	6,200
特別退職金等		5,044		5,000
棚卸資産評価損等		13,173		13,200
その他	261	3	63	
特損益計	1,648	11,985	1,324	12,000
税引前損益	11,379	19,234	6,269	19,500

受注推移 (四半期ベース)

Q合計

単位: 億円



2003年3月期 年度業績見通し

(1) 全社 (連結)

単位: 億円 ()は前期比増減額

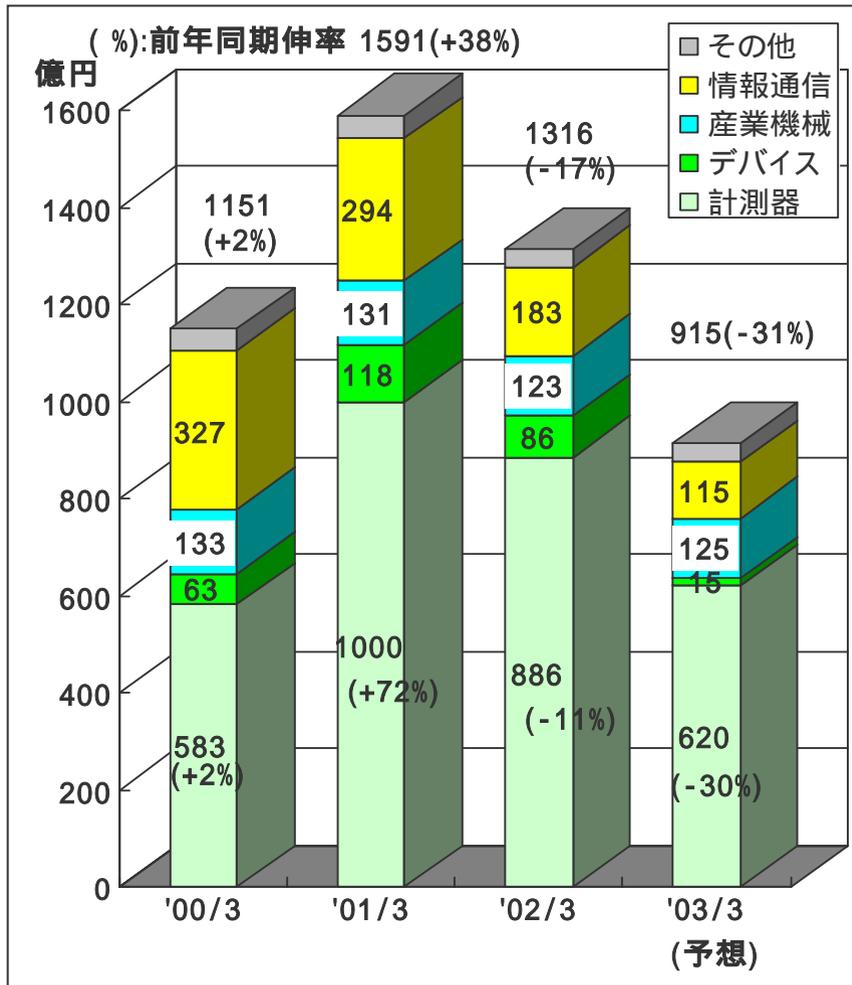
	連 結		単 独	
	売上高	915	(-401)	560
営業利益	35	(-111)	75	(-125)
経常利益	75	(-124)	85	(-137)
純利益	170	(-196)	150	(-185)
FCF	40	(+54)	70	(-76)

(2) 事業セグメント別 (連結)

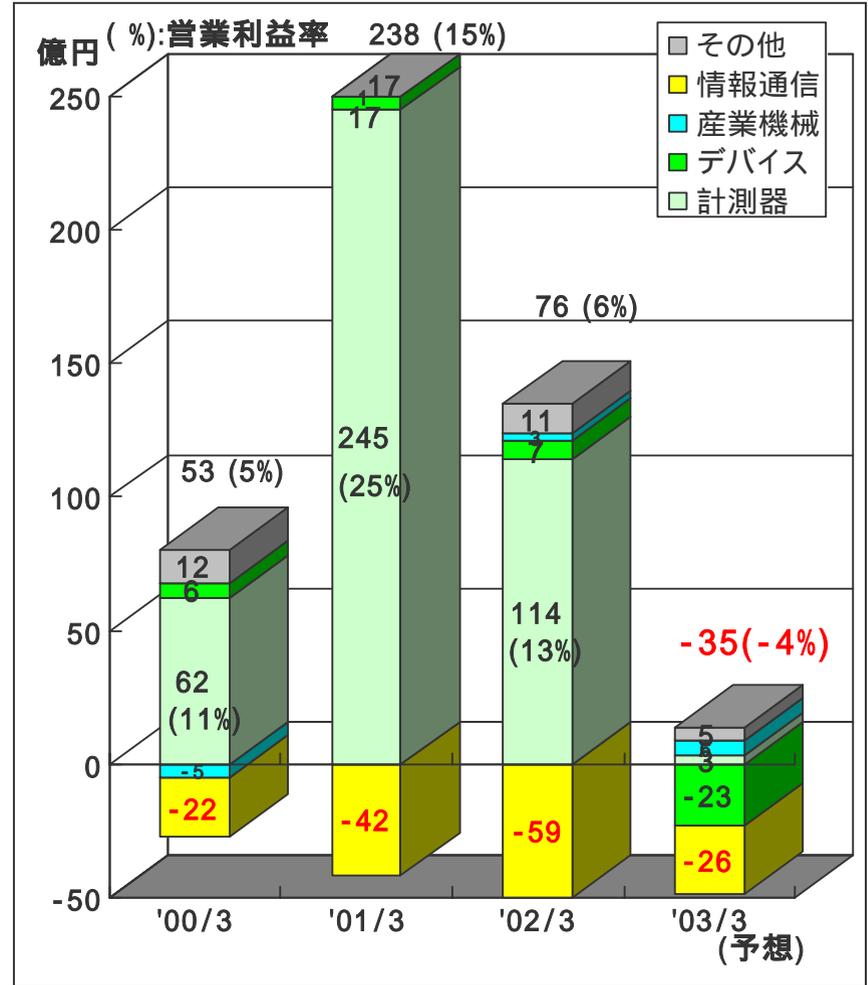
単位: 億円 ()は前期比増減額

	売上高		営業利益	
	情報通信機器	115	(-68)	26
計測器	620	(-266)	3	(-111)
デバイス	15	(-71)	23	(-30)
産業機械	125	(+2)	6	(+3)
サービス他	40	(+3)	5	(-6)

事業セグメント別業績見通し(年度比較)



売上高



営業利益

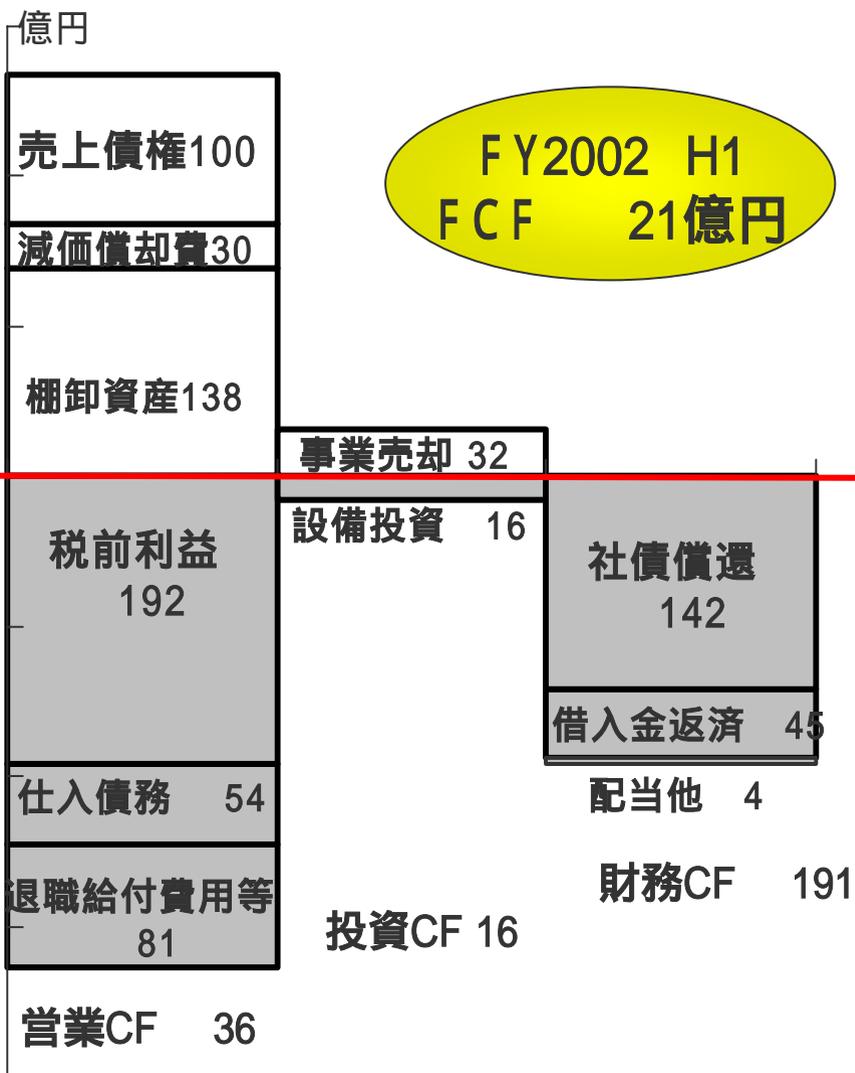
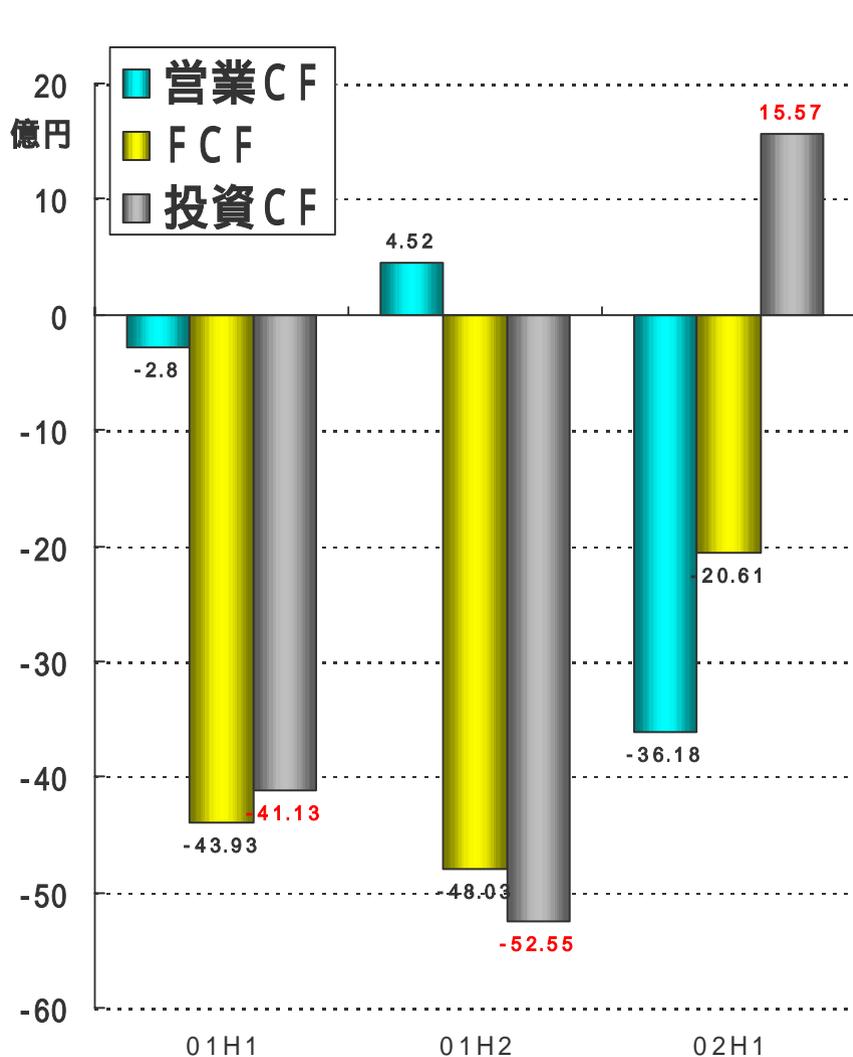
連結キャッシュフロー計算書

主な項目
のみ表記

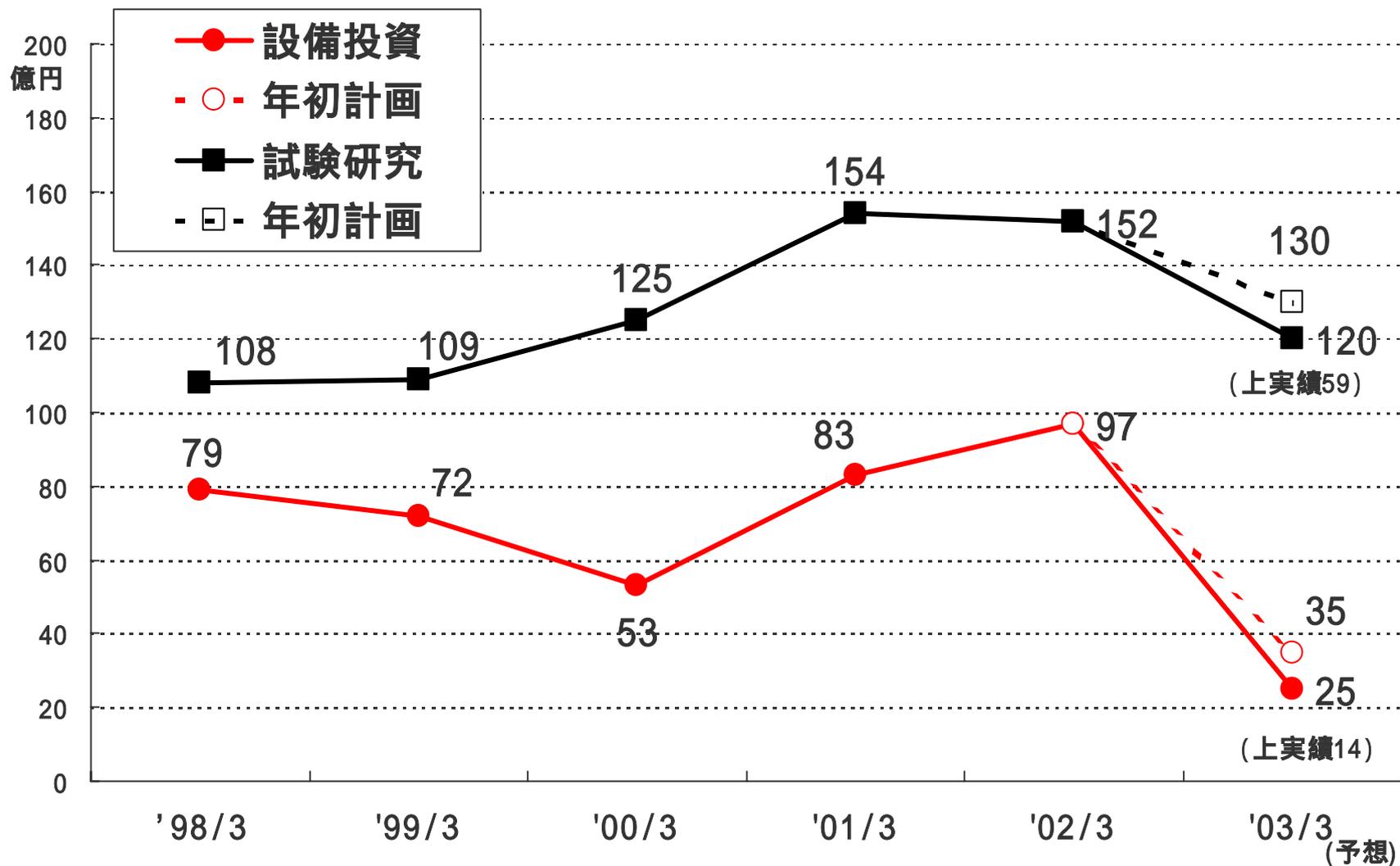
(億円)

	FY2002	FY2001	FY2002H1
1. 営業活動によるCF	51	2	36
税引前利益	156	63	192
減価償却費	55	67	30
売上債権	154	297	100
棚卸資産	124	14	138
仕入債務	99	219	54
運転資本計	179	64	184
退職給付費用			94
法人税等	43	134	29
2. 投資活動によるCF	48	95	16
有価証券・投資有価証券	11	15	3
設備投資	73	90	16
テレコム事業売却収入			32
フリーキャッシュフロー(1+2)	3	93	21
3. 財務活動によるCF	1	244	191
借入金純増減	13	117	45
CB・SB発行(償還)		150	142
配当金の支払	11	17	4
現預金の期末残高	244	396	182

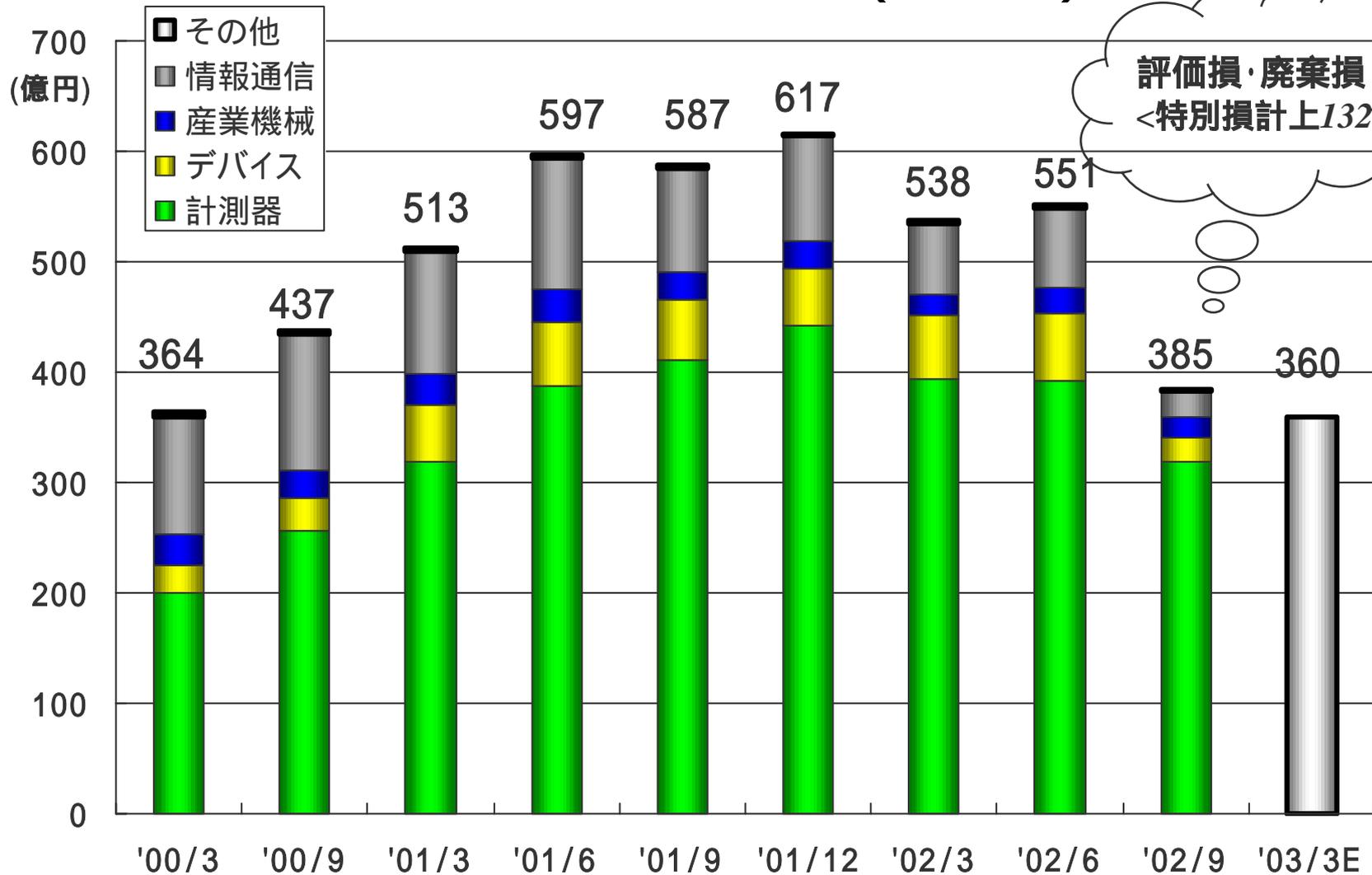
連結キャッシュフロー推移



設備投資額・試験研究費推移



棚卸残高推移 (連結)



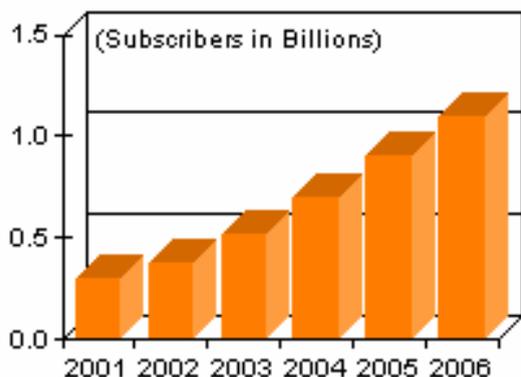
2002年度 今後の取組み

2002年11月1日
アンリツ株式会社
社長 塩見 昭

全般的市場動向

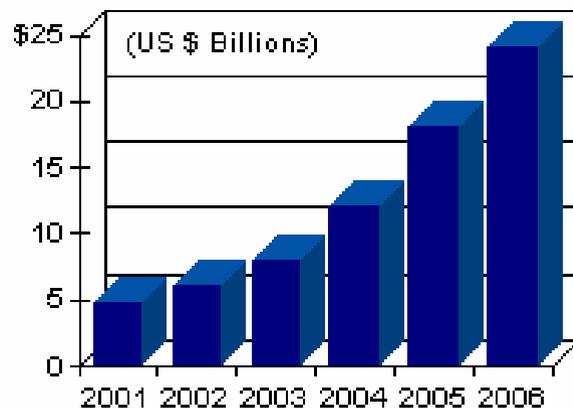
- 2002年度、2003年度を通し、通信市場は極めて厳しい状況が続く
- 長期的にはIPを核にしたデジタル通信やモバイル通信などの成長推進力は損なわれていない
- 成長を続ける中国市場に大きなビジネスチャンスがある

Worldwide Wireless Internet and Messaging Subscriber Forecasts



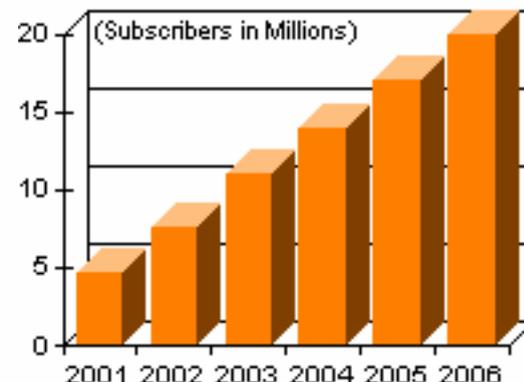
Source: In-Stat/MDR 10/02

Core LAN Switch Revenue



Source: In-Stat/MDR 9/02

Total US DSL Broadband Subscriber Forecast 2001 -2006



Source: In-Stat/MDR 8/02

受注拡大の取組み

- Business Creator活動

- トップ訪問によるパートナーシップの確立と受注案件の種まき
 - グローバルアカウント4社は引き続き継続（約30億円）
 - 約50件 50億の新規引合い案件創出
- EMSとの業務提携

- 中国室

- 国産 / 外資系端末機メーカー、通信事業者、デバイスメーカー、EMS等
- 西部開発(10次5カ年計画) 通信インフラ構築
 - SDH、OTDR、携帯用測定器の需要
 - 成都、西安、重慶など12省のオペレータ



- 研究所の知的財産の事業化 提案準備

IP通信市場ビジネス

装置・ネットワーク試験

市場 '02年:550億円
'05年:1100億円

- パフォーマンス測定
- プロトコル分析
- 光パルス測定

IP通信に集中したソリューションをトータルにサポート

市場 '02年: 160億円
'05年: 360億円

- 超高速パルス測定
- ジッター測定
- 分光分析

MSAによる各種モジュール
対応のシステム製品を強化
MSA(Multi-source
Agreement)

部品試験

市場 '02年:120億円
'05年:140億円(国内)

- 映像配信
- マルチキャスト
- 上位レイヤー制御

国内のセキュリティ映像
監視に注力

LAN スイッチ

装置・ネットワーク試験用IP測定器

- Network Associate社との協業により上位レイヤーをカバー
- MD1230A データクオリティアナライザ (開発・製造用)
 - メーカーのADSL/LAN/10Gイーサ等機器性能評価
 - キャリアのネットワークモニタリング
- MD1231A IPネットワークアナライザ (保守用)
 - キャリア(メトロネットワーク、ADSL回線、
 - IPネットワーク等)の保守、トラブルシュート



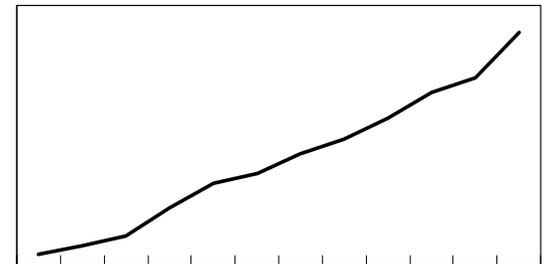
MD1230A



MD1231A



MD1230Aの累積受注トレンド



01/10 12 02/2 4 6 8

映像配信システム

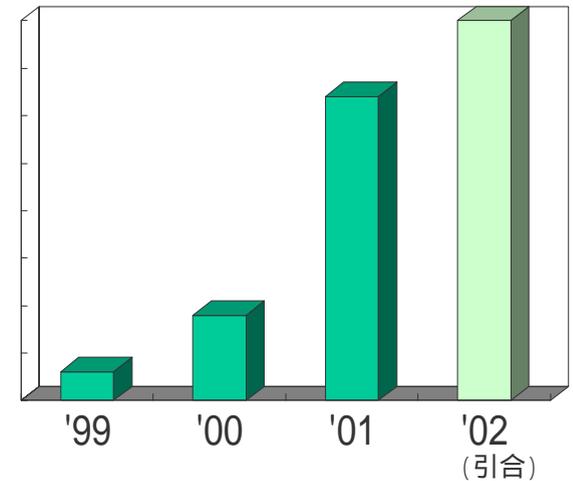
- 映像配信に特化した高信頼ネットワーク

官公庁・自治体等のセキュリティー関連の需要増大

大手映像・セキュリティー機器メーカーと提携強化



受注トレンド

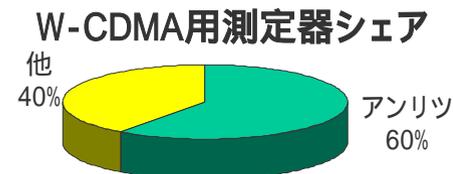


受注拡大の取組み

携帯電話用測定器ビジネス

•無線特性(ハードウェア)試験からプロトコル解析まで

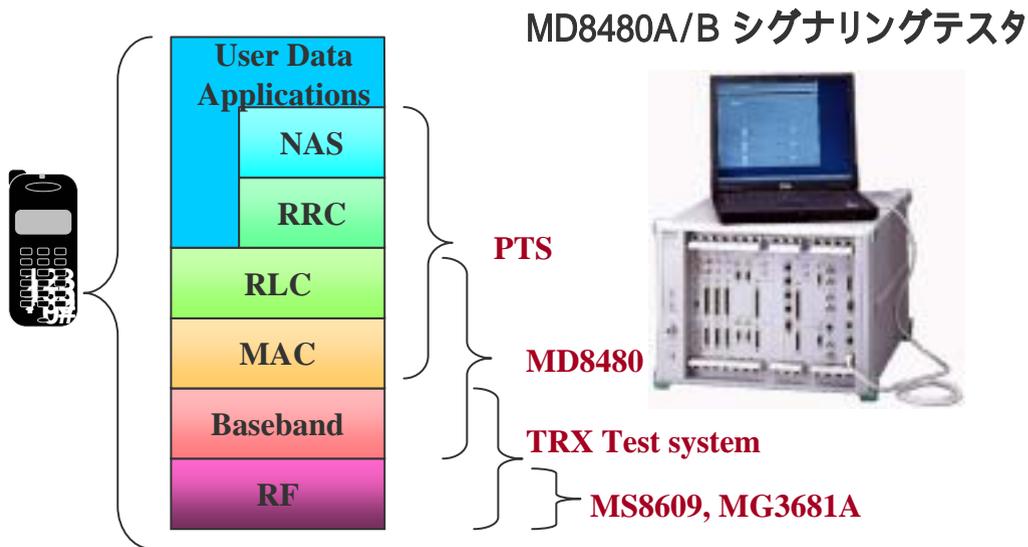
- 3GPP活動での貢献をとおり、W-CDMAでシェアNo.1維持
- 実質業界標準のシグナリングテストの強化
- シナリオビジネスで、端末機メーカーと提携
- 各国認証機関へTRX/Performance Test System供給
(7 Layersで3GPP規格への適合証明(Validation)取得)
- 2G ~ 3.5G対応で、グローバルなビジネス展開



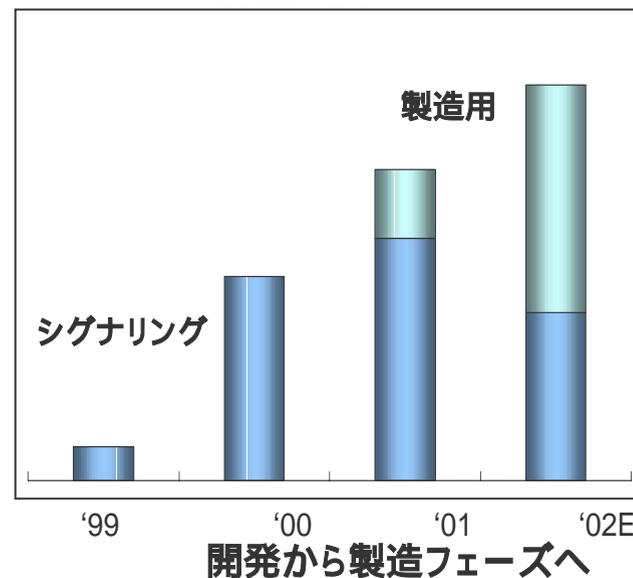
プロトコル解析ツール

• 端末機の高次レイヤ開発ツール需要

- MD8480A/Bシグナリングテスト(W-CDMA, GSM/GPRS)
- 3GPPシグナリング適合試験用PTSソフトウェア
- Interoperability(相互接続)対応試験用シナリオ編集ツール



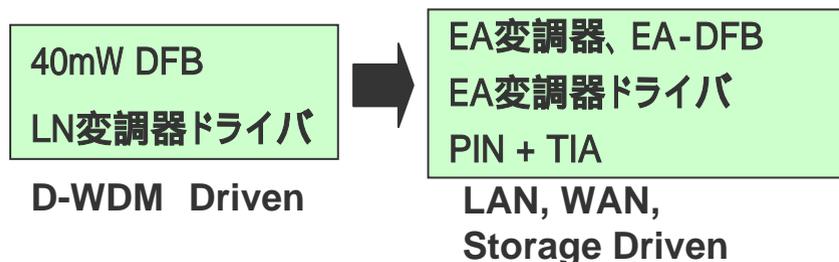
受注トレンド



デバイスビジネス

- 長距離通信市場からIPネットワーク市場へ
 - ストレージ、自営網、アクセス等のEthernet市場の活性化
 - 光デバイスのOne chip化、低価格化

LAN, WAN, ストレージ(Ethernet) 関連デバイス



FTTx (Last one mileの高速化) 関連デバイス



Data com 関連(低価格対応)アクティブデバイス



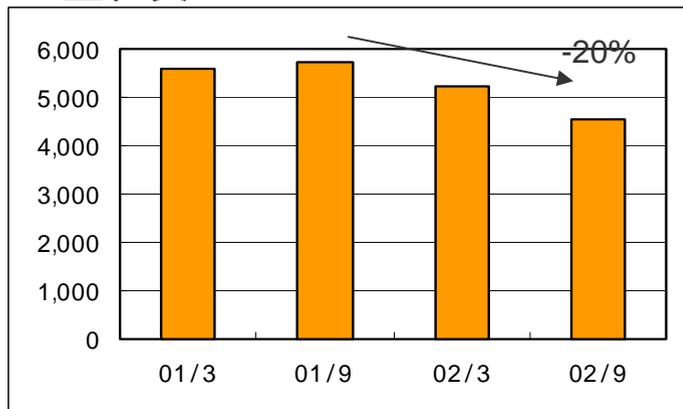
経営構造改革の効果

- **経営構造改革** (7月1日実施)
 - ネットワークソリューションズ 解散
 - メジャメントソリューションズの2カンパニー化
 - システムソリューション本部の新設
 - インダストリアルソリューションズの分社独立
- **構造改革の効果**
 - 情報通信機器事業、産業機械事業の収益性の改善
 - 計測事業の成長事業分野へのリソースの集中
- **2001年より 年間固定費削減**
 - 100億円(内、人件費70億円)、1160人削減

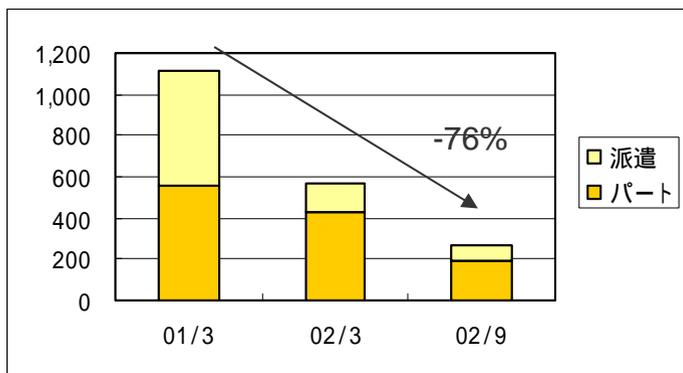
コスト削減の取組み

- 人員削減 グローバル

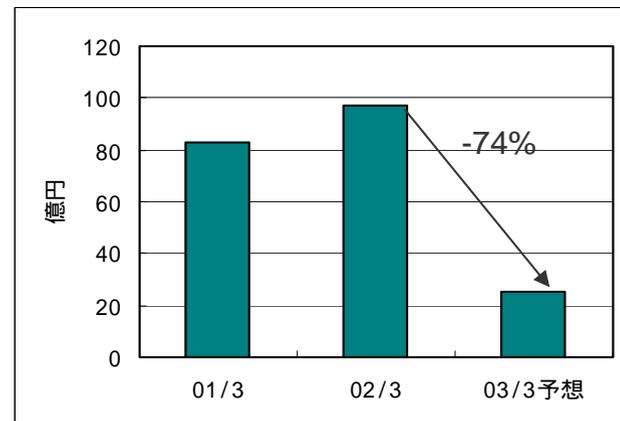
1. 正社員



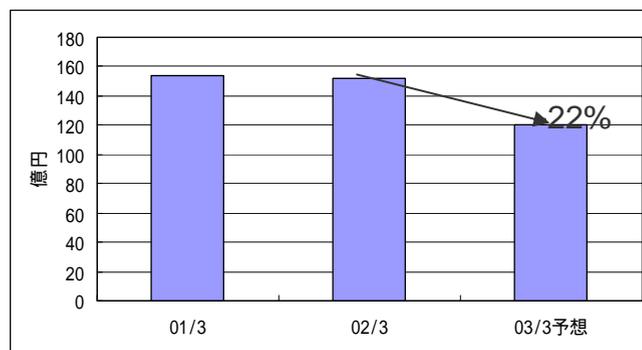
2. 派遣・パート社員



- 設備投資削減

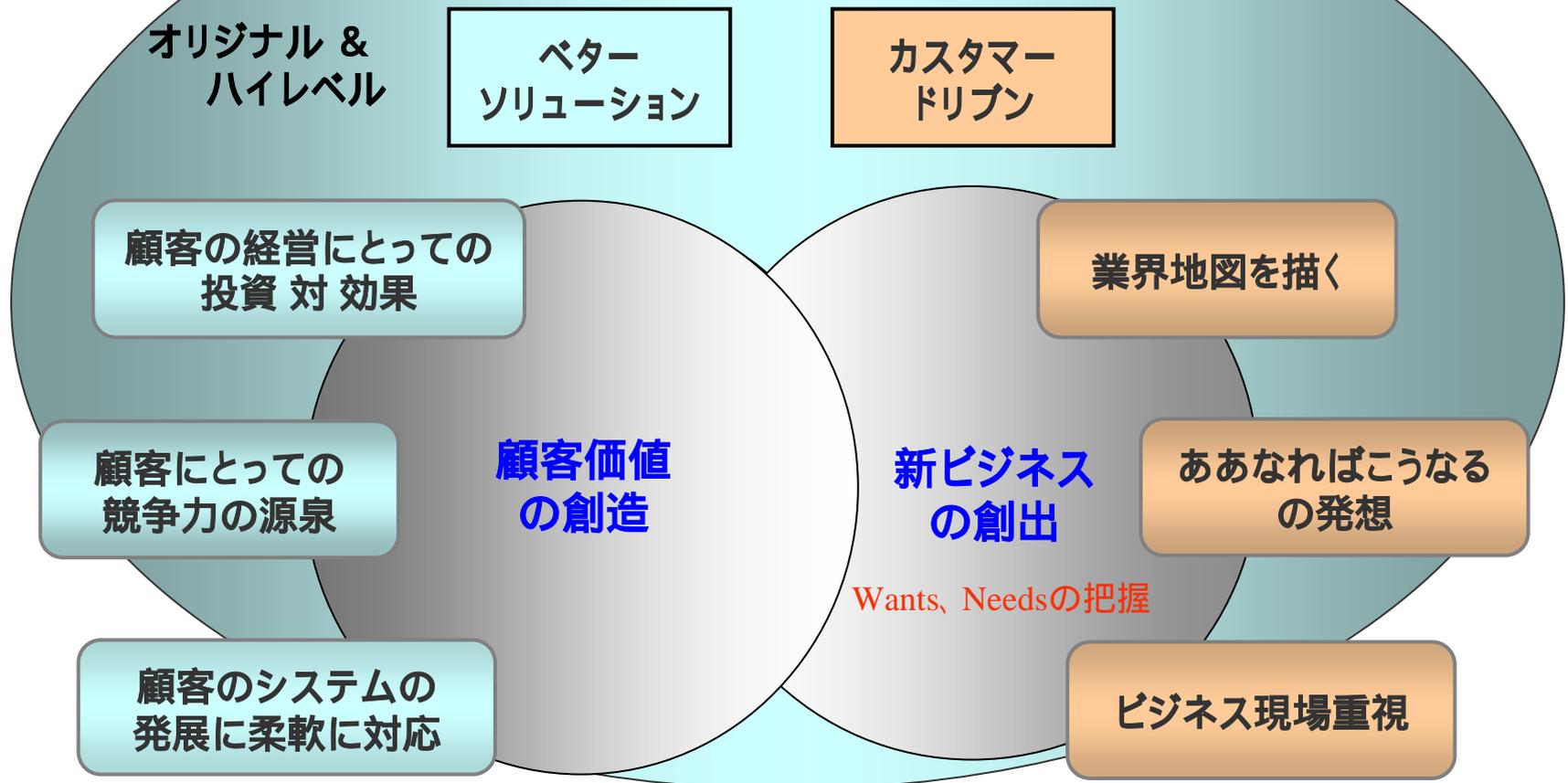


- 開発費削減



知の製造業

新しい「ビジネスモデル」の創出と
新しい「顧客価値」の創造



注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含
んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異な
る結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要
因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、北米、欧州、アジア等の経済情勢、アン
リツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい
競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サー
ビスを提供できる能力、為替レートなどです。なお、業績に影響を与えうる要因はこ
れらに限定されるものではありません。